

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏 名 波多 幸江
 学 位 博 士 (学術)
 学 位 記 番 号 新大院博 (学) 第 93 号
 学位授与の日付 平成 30 年 9 月 20 日
 学位授与の要件 学位規則第 3 条第 3 項該当
 博 士 論 文 名 養護教諭の職業的アイデンティティ尺度の開発 ―関連要因の解明による養護教諭の職業的アイデンティティの発達に向けて―

論文審査委員 主 査 准教授 笠巻 純一
 副 査 教 授 横山 知行
 副 査 教 授 松井 賢二

博士論文の要旨

本論文は、養護教諭の職業的アイデンティティを測定するための尺度の開発ならびに、養護教諭のアイデンティティに関連する要因を解明し、養護教諭の職業的アイデンティティの発達に向けた支援策に寄与することを目的としている。先行研究をレビューするとともに、新たな尺度を作成し、質問紙調査の解析結果と先行研究による職業的アイデンティティ研究の知見に基づき、尺度の信頼性・妥当性を検証している。さらに、養護教諭のアイデンティティに関連する要因を解析し、実用化に向けた提案を行っている。

論文は 6 つの章で構成されている。第 1 章及び第 2 章では、問題の所在、研究の目的と意義、先行研究に基づく理論及び尺度の検討、第 3 章～第 5 章では、尺度開発に関する調査・解析結果の検討及び尺度の応用に関する考察、第 6 章では結論について述べている。

第 1 章では、養護教諭の歴史と養護教諭をめぐる社会の動向等を俯瞰するとともに、アイデンティティに関する理論を整理し、養護教諭の職業的アイデンティティについて検討することの意義と研究目的について論じている。

第 2 章では、養護教諭の近接領域である看護職・教育職における職業的アイデンティティ尺度の開発状況をレビューし、先行研究で示されている尺度の構成概念及び信頼性・妥当性を検討、養護教諭の職業的アイデンティティ尺度開発の展望と課題について纏めている。

第3章第1節では、養護教諭の職業的アイデンティティ尺度開発に向けた予備調査の解析結果を示し、養護教諭の職業的アイデンティティ尺度（試案）の因子構造と属性に基づく傾向について論じている。第2節、第3節では、本調査の解析結果から、養護教諭の職業的アイデンティティ尺度の信頼性・妥当性を検討し、2次元4象限（「養護教諭としての独自性に対する認識・自負」、「養護教諭として必要とされることへの自覚」、「社会貢献への志向」、「養護教諭という職業選択への確信」）を構成概念とする尺度を開発するとともに、簡易版の作成を試み、実用性を考慮した尺度を提案している。

第4章では、養護教諭の職業的アイデンティティに関連する要因について、先行研究との比較検討を行い、養護教諭の職業的アイデンティティの発達に影響する社会心理的要因について考察している。

第5章では、第3章において得られた結果を受け、養護教諭の職業的アイデンティティと年齢、勤務経験年数、勤務校種との関連について更に詳細な解析を行い、養護教諭の職務の特徴や経験年数等を考慮しながら、職業的アイデンティティを維持・回復させるための対策の必要性について論じている。

第6章では、本研究を総括し、結論を述べている。第1章から第5章において得られた知見を整理し、開発した養護教諭の職業的アイデンティティ尺度の信頼性・妥当性の確認と活用の可能性について論じている。また、開発した尺度や養護教諭の職業的アイデンティティに関連する要因の検証を踏まえた支援策を講ずる上での課題について纏めている。

審査結果の要旨

近年、子供の健康課題は多様化・複雑化・深刻化し、学校においては、養護教諭に求められる役割の増加とともに、スクールカウンセラーや学校看護師等、養護教諭に類似する職種の配置も進んでいる。養護教諭には、様々な職種との連携による学校保健活動の推進等、新たな期待が寄せられているが、養護教諭の中には、自分の専門性を見失い、養護教諭としてのアイデンティティの揺らぎやアイデンティティを見失うといった状況が指摘されている。養護教諭の近接領域である看護師や教諭等においては、その専門性や専門職化、キャリア発達の支援において、職業的アイデンティティの形成・発達といった視点が導入され、職業的アイデンティティを測定する尺度の開発が進められているが、養護教諭の職業的アイデンティティを測定する尺度の開発は未だ発展途上である。波多氏は、養護教諭の職業的アイデンティティを測定する尺度の開発と養護教諭の職業的アイデンティティに関連する要因の解明を通して、これらの課題解決に向けた方策について論じている。

本研究の意義は次の通りである。第一に、養護教諭の職業的アイデンティティ尺度の開発は、養護教諭の専門職化やキャリア発達に関連する指標として有用であり、養護教諭としての成長

支援に生かすことが大いに期待できる。本論文では、看護師・教諭等、近接領域の職業的アイデンティティの尺度に関する先行研究をレビューするとともにアイデンティティに関する理論を基盤に養護教諭を対象とした独自の調査票を作成、解析結果から養護教諭の職業的アイデンティティ尺度を開発している。第二に、尺度を用いた養護教諭の職業的アイデンティティの解析（因子分析）結果を活用し、養護教諭の職業的アイデンティティに関連する要因を探ることで、職場環境等の改善に向けた提言に繋げている。近接領域の職種を対象とした先行研究において検討されてきた職業的アイデンティティの関連要因の検証と本研究結果を用いた解析は、実態に即した職業的アイデンティティの発達に関するアプローチを検討する上で有効な手法といえる。第三に、養護教諭の職業的アイデンティティは、児童生徒の健康行動や疾病予防に関する諸活動等、職務への意識・実践への関与も推察される要因であり、本研究結果を用いた職業的アイデンティティの維持・回復に向けた取組みを通して、学校保健活動の推進に寄与することが期待される。

博士論文の執筆過程においては、「養護教諭の職業的アイデンティティ尺度の開発 ―妥当性の検討―」が原著論文として日本養護教諭教育学会誌（Vol. 21, No. 1）に掲載されている。

以上の内容を総合的に審査した結果、波多氏がこれまで殆ど未着手であった養護教諭の職業的アイデンティティ尺度の開発に先駆的に取り組み、養護教諭の職業的アイデンティティの発達に向けた支援策に極めて有用な知見を見出したことを高く評価した。

以上のことから、本審査委員会は本論文が博士（学術）の学位を授与するに値するものと判断した。